

2018 年度に実施したプロジェクト評価結果のまとめ

2018 年度に実施した、プロジェクト中間評価全 7 件及びプロジェクト事後評価全 4 件について、評点はそれぞれ以下の通り。

1. 中間評価結果のまとめ

	事業名	担当部	意義	運営	成果	実用化
1	高輝度・高効率次世代レーザー技術開発	IoT	2.6	2.0	2.1	1.3
2	植物等の生物を用いた高機能品生産技術の開発	材料ナノ	3.0	2.4	2.4	1.9
3	超先端材料超高速開発基盤技術プロジェクト	材料ナノ	3.0	2.4	2.3	2.6
4	高温超電導実用化促進技術開発	省エネ	2.8	2.2	2.3	2.2
5	地熱発電技術研究開発	新エネ	3.0	1.8	2.2	2.0
6	革新型蓄電池実用化促進基盤技術開発	電水	3.0	2.2	2.5	2.0
7	次世代火力発電等技術開発／ 〔2〕 高効率ガスタービン技術実証事業	環境	2.9	2.6	2.9	2.1

注：赤字 1 件については、本日の第 58 回研究評価委員会での審議を経て、確定する。

2. 事後評価結果のまとめ

	事業名	担当部	意義	運営	成果	実用化
1	次世代スマートデバイス開発プロジェクト	IoT	2.9	1.6	2.3	1.4
2	次世代材料評価基盤技術開発／ 有機薄膜太陽電池材料の評価基盤技術開発	材料ナノ	3.0	2.7	2.7	2.0
3	風力発電等技術研究開発／ 〔2〕 風力発電高度実用化研究開発	新エネ	2.8	1.6	1.8	1.6
4	海洋エネルギー技術研究開発	新エネ	3.0	2.7	2.6	2.0

注：赤字 3 件については、本日の第 58 回研究評価委員会での審議を経て、確定する。

第4期中長期計画における評価指標について

○第1期～3期 事後評価結果

合格 60% (成果+実用化 \geq 3点 (6点満点))

優良 80% (成果+実用化 \geq 4点 (6点満点))

○第4期 事後評価結果

70%以上 (マネジメント、成果 \geq 2点 (3点満点))

50%以上 (実用化 \geq 2点 (3点満点))

第4期中長期計画 抜粋

I. 研究開発成果の最大化その他の業務の質の向上に関する事項

第4期中長期目標期間においては、研究開発成果の最大化その他の業務の質の向上のため、以下のとおり、1. から4. の業務項目毎に取組を行うものとする。

また、機構の業務活動単位を①エネルギーシステム分野、②省エネルギー・環境分野、③産業技術分野、④新産業創出・シーズ発掘等分野とし、これらの分類ごとに組織上の責任者を配置して業務を実施する。(中略)

1. 技術開発マネジメント等による研究成果の社会実装の推進

(1) 世界最先端の研究開発プロジェクトの実施と成果の最大化

○数値目標1. - 1

【目標】「基幹目標」

(中略)

事業終了後、5年が経過していないナショナルプロジェクト(非連続ナショナルプロジェクトを除く。)については、事業終了後に実施する外部評価委員会による 事後評価における「成果の実用化・事業化に向けた取組及び見通し」の評価項目の4段階評点が最上位又は上位の区分となる比率を第4期中長期目標期間全体で該当する評価単位のそれぞれにおいて、いずれも50%以上 (平成23年度以前に終了したナショナルプロジェクト243件の実績は41%) とすることを目標として、成果の実用化に向けたマネジメントに、より一層取り組むものとし、当該比率を基に実用化達成率の将来予測を行うものとする。

(2) 技術開発マネジメントの機能強化

○数値目標1. - 2

【目標】

(中略)

第4期は、マネジメント結果を直接的に測定できる 「研究開発マネジメント」及び「研究開発成果」の評価項目に特化することとし、同評価項目の4段階評点が最上位又は上位の区分の評価を得る比率について、第4期中長期目標期間全体で該当する評価単位のそれぞれにおいて、いずれも70%以上 (平成28年度までに事後評価を完了したナショナルプロジェクト358件の実績値は68%) とすることを目標とし、その達成状況を評価する。